



Eurock2005、ISRM Council MeetingおよびARMS Council Meeting参加報告

著者	楠見 晴重
雑誌名	岩の力学News
巻	77
発行年	2005-11-25
権利	(C)一般社団法人 岩の力学連合会：このデータは一般社団法人岩の力学連合会の許諾を得て作成しています。The original data is available at: http://www.rocknet-japan.org/JCRMN/RMN_077/RMN_077-2.htm
URL	http://hdl.handle.net/10112/7337

Eurock2005、ISRM Council Meeting および ARMS Council Meeting 参加報告

関西大学 楠見晴重 (前幹事長)

2005年5月16日から20日まで、チェコ共和国のブルーノ (Brno) で Eurock2005 が開催されました。ブルーノは人口約10万人のチェコ第2の都市で、中心部には王宮や重厚なカテドラルが林立するヨーロッパらしい美しい町ですが、チェコでは第1の産業都市です。町には大きな空港はなく、プラハから列車で約3時間、あるいはオーストリアのウィーンから約1時間30分で到着します。チェコはすでにEUに属しているのですが、経済は旧西ヨーロッパ圏の国とはかなりの格差があるようで、通貨はユーロではなく、チェコ・コルナが使われていました。Eurock2005の参加者は正確な数は把握していませんが約250名程度、日本からは同伴者も含め19名と学生3名が参加していました。発表件数はポスター発表も含め約100件程度でした。

16日にはISRM Council Meeting, ARMS Council Meeting が開催されましたが、日本からは田中荘一前副理事長と私が両方のMeetingに参加しました。今回のISRM Council Meetingでは、2011年の開催国と次期ISRM総裁を選ぶ選挙が実施されました。2011年の開催国に立候補しているのは、韓国と中国の2カ国で、それぞれの国からは数十名のデレゲーションを組んで、15日から会場のホテルロビー内にブースを設けて文字通り活発なロビー活動が行われていました。特に中国は、数名のチャイナドレスを身にまとった女性楽団も同行させて大変派手で、まるで国の威信をかけているような非常に活発な誘致運動を行っていました。その甲斐あってか2011年のISRM Congressは中国が選ばれ、開催地は北京と決まりました。シンガポールは中国とジョイントでコンGRESの運営を行うこととなりました。また田中副理事長からは日本が代表となっている、Commission on Application of Geophysics to Rock Engineeringの活動報告が行われました。

ISRM次期総裁は、イギリスのJ.A.Hudson、ポルトガルのL.e.Sousa、ドイツのC.Ericsonの3名が候補に挙がっていました。いずれもヨーロッパ人で、ヨーロッパの中ではどうもうまく調整がつかなかったように感ぜられました。こちらは特にドイツのEricsonが活発にロビー活動をしていまして、私のところにも盛んにアピールをしてきました。またProf.Wittkeも各国代表にEricsonを盛んにアピールしており、16日当日に朝食を取っているときに、私にアポイントを申し込んできました。総裁選挙の結果は、イギリスのHudsonが選ばれましたが、2007年リスボンで開催されるISRM Congress開催国のポルトガルから立候補したSousaがかなり落胆していたのが、特に印象的でした。

ARMS Council Meetingは16日の11時から開催されましたが、場所がアジアから遠く離れていることから、シンガポール、韓国、中国、日本とイランのみが参加していました。

ここでは特に 2006 年シンガポールで開催される 4th ARMS 後の、5thARMS の開催国について議論され、2009 年イランのテヘランが立候補し、承認されました。イランの代表者によりますと、何とか 500 名の参加を実現させたいとのことでした。また議題の 1 つとして、日本から 3rdARMS の報告を求められましたが、京大の青木先生から私が代理を依頼されたので、報告させて頂きました。終了後、イランの代表者から 5thARMS に多くの日本人が参加してほしいとの協力依頼がありました。

Eurock2005 のオープニングセレモニーは、17 日の朝行われましたが、中国、韓国から多くの参加者があった関係上、一瞬 ARMS Symposium と間違ふほど、アジア人の参加が多く見られました。ISRM Council Meeting の熱気とは裏腹に研究発表の内容は、すべて聞いたわけではないですが、注目された発表は非常に少ない印象を持ちました。日本も最近岩盤工学の停滞が言われて久しいですが、しばらく参加していなかったヨーロッパの岩盤工学も日本以上に停滞しているのではとの印象を持ちました。ただし、ヨーロッパでは、自動車から鉄道への回帰が叫ばれており、

国によっては高速鉄道網の計画、建設が盛んになっているところも見受けられ、トンネルの建設プロジェクト計画について数人から聞きました。またフィンランドは高レベル放射性廃棄物の処分場に関して、すでに建設場所の選定を行い、世界で最初に建設を行っています。

来年の Eurock2006 は、5 月 8 日からベルギーのリエージュで開催されますが、ヨーロッパの岩盤関係がさらに活発になることを期待しています。